



発作がないときでも治療をしなければいけないのは、なぜですか？

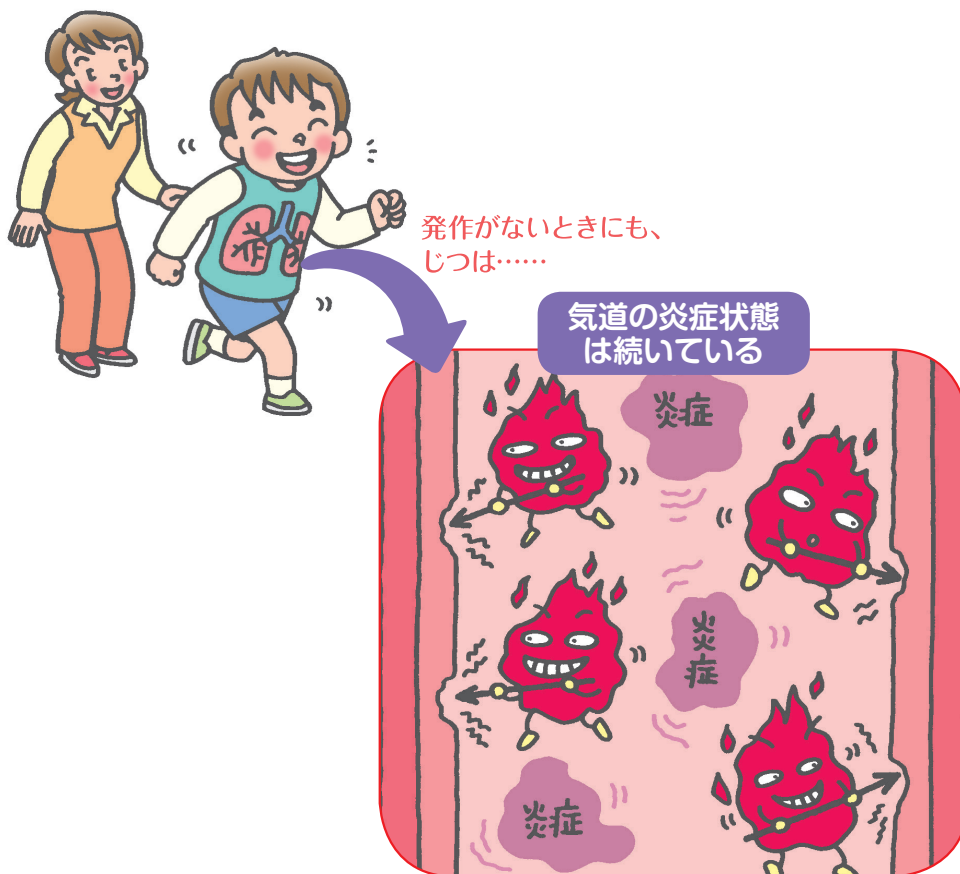


気道の炎症が続いているからです。

気道が収縮して狭くなるのは、気道に起きている炎症が原因です。気道に炎症が起こると、気道の粘膜が傷ついて刺激に弱く敏感になります。

炎症をわかりやすいように火事にたとえてみましょう。火事が起きたとき、水などで消火をすると、だんだん火は消えていきます。ここで、完全に消火することができれば問題ありませんが、完全には火が消えていなかった場合、風が吹くなどの“刺激”により、くすぶっていた火だねが再度燃え上がることがあります。

ぜん息は、これと同じような状態が気道の粘膜に起こっています。気道の炎症は、短期間で完全にとりさることは難しいため、発作がないときでも炎症状態は続いているのです。そのため、ぜん息発作を防ぐには、発作がないときにも、炎症を抑える治療を続けていくことが非常に重要なのです。



ぜん息とはどんな病気？

ぜん息の検査と診断

ぜん息発作が起きたときの対応

ぜん息発作を起こさないための薬物療法

環境整備をしましょう

運動誘発ぜん息と体力アップのための運動

ぜん息の自己管理のポイント

学校(園)生活での注意点